

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																				
東放学園映画専門学校		昭和59年4月2日		松島 司		〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-25-8 (電話) 03-5333-5080																				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																				
学校法人東放学園		昭和54年4月1日		斉藤 晃		〒168-0063 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3378-7538																				
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																			
文化・教養	芸術専門課程	プロモーション映像科				平成6年文部科学省告示第84号	-																			
学科の目的	映像・メディア業界で必要とされる技能とコミュニケーション能力を兼ね備えた創造力豊かなマルチクリエイターを育成することを目的とする。																									
認定年月日	令和3年3月25日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
2年	昼間	1700時間	405時間	830時間	665時間	0時間	0時間																			
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
72人		71人	10人	3人	10人	13人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A:100-85 B:84-70 C:69-60 D:59-50 F:49以下不合格 出席状況と試験、レポート提出、平常点等で評価																					
長期休み	■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月21日～翌1月6日 ■春 季:3月16日～3月31日			卒業・進級条件	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 相談内容に応じて、クラス担任、進路担当、専任カウンセラー等が対応。出席不良の学生には、クラス担任が電話やメールで状況を確認し、連絡がつかない場合は、保護者に報告。教職員全員で情報を共有し、組織的に対応している。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等部・クラブ活動、運動会、スポーツ大会、学園祭、ボランティア活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等																					
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) ㈱要堂、㈱ラストネットワーク、㈱KEYAKI WORKS、㈱TREE Digital Studio、㈱博報堂プロダクツ、㈱東北新社、㈱ライトパブリシティ、他(順不同)				主な学修成果(資格・検定等)※3	(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本語ワープロ検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>映像音響処理技術者資格認定試験</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>情報処理検定(表計算)</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	日本語ワープロ検定	③	6人	5人	映像音響処理技術者資格認定試験	③	6人	2人	情報処理検定(表計算)	③	7人	5人
	資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
	日本語ワープロ検定	③	6人	5人																						
	映像音響処理技術者資格認定試験	③	6人	2人																						
	情報処理検定(表計算)	③	7人	5人																						
	■就職指導内容 学科科目として「就職講座」を開講し、一般的な新卒者の就職活動から映像制作会社特有の活動まで、そのノウハウを指導しつつ、ビジネスマナーや就職筆記試験対策も取り入れている。就社希望者には就職セミナー、学内企業説明会を実施している。1,2年それぞれの学年でインターンシップ制度も実施している。卒業学年には年3回の進路アンケートを実施し、進路担当者が個別でも対応している。※年金講座、租税教室など社会人生活に必要な知識を得るための講座も実施している。					※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																				
	■卒業生数: 38 人					■自由記述欄 在校生が多くのアーティストのミュージックビデオを制作し、公式HP等で公開されている。 ・Miyuu『Restart』、『You got the love』、『closer again』 ・イトヲカン『あなたが好き』、『半径10メートルの世界』 ・MASH『マイホームタウン』、『僕がいた』 ・井上紗矢香『Home』、『I can』、『tiny days』、『ばか』、『旗印』 ・上野大樹『航る』／・DaizyStripper『SAKURAサムネイル』 ・ハイスクール・バンバン『Record』／・武田レイナ『Choice』 ・Osamuraisan『夜の道標』／・ヒラ音楽団『イイ感じですよ』 ／・Homesick『サーチライト』／・SHACALANDA『熱』／・璃咲『ライク』など																				
	■就職希望者数: 32 人																									
	■就職者数: 29 人																									
	■就職率: 91 %																									
■卒業者に占める就職者の割合: 76 %																										
■その他 ・進学者数: 0人 ・映像制作会社への就社希望が主だが、フリーランス(監督)として就業を希望するものもある。																										
(令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																										

<p>中途退学 の現状</p>	<p>■中途退学者 17名 ■中退率 19%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者89名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者72名（令和4年3月31日卒業者をを含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、経済的問題、健康上の理由等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担当アドバイザー（担任）が学生の欠席および成績状況を把握し、必要に応じて指導ならびに助言を行い、保護者との情報共有を図っている。また個人面談を通じて学校生活全般に対するケアを行っている。専任カウンセラーによるカウンセリングを実施している。</p>
<p>経済的支援 制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 【入学前】 【東放学園特待奨学生制度】 将来性ある優れた能力を有する者に学費を免除（全額免除～一部免除） 【東放学園卒業生子女奨学金制度】 本学園卒業生の子女が入学する場合に入学金の半額を免除（出願時に要申請書） 【東放学園卒業生・在校生 兄弟姉妹奨学金制度】 本学園卒業生または在校生の兄弟姉妹が入学する場合に入学金半額免除（出願時に要申請書） 【入学後】 【東放学園奨学金制度】 経済的な修学困難者に対し、2年次後期授業料を免除する制度 【東放学園特別育英奨学生制度】 本学園の教育方針を理解し勉学に励んだ者で年間の成績が特に優秀であり、かつ人物的にも優れている者を選抜し後期授業料相当額を給付する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による 学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）</p>
<p>当該学科の ホームページ URL</p>	<p>https://www.tohogakuen.ac.jp/movie/promotion/</p>

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3)上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、教務教育部長の他、学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは専門分野に関わる人材の育成に有用なご意見や改善点、新たな施策を提示して頂き、当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的な要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でのフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年度

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
秋田 典宏	一般社団法人日本ポストプロダクション協会【JPPA】 調査事業委員会 委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
酒井 賢人	株式会社808 代表取締役 プロデューサー	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
大谷 純一郎	権四郎ガーブ株式会社 制作部長 ディレクター	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
松島 司	東放学園映画専門学校 学校長		
蒲田 直樹	東放学園映画専門学校 教務教育部長		
大和 秀平	東放学園映画専門学校 プロモーション映像科 学科主任		
伊藤 亜季	東放学園映画専門学校 プロモーション映像科 学科担当		
青柳 高広	東放学園映画専門学校 学務管理部部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月17日 15:30～17:30(オンラインにて開催)

第2回 令和5年2月中旬 ※新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、文書による回答で開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各委員からの提案内容や委員会での決定内容等に関しては、各学科の担当職員を中心に構成されるカリキュラム会議等において、次年度以降の教育課程の編成や、当該年度の授業内容に具体的に反映させている。

【本学科への意見・改善案等(抜粋)】

意見等:映像制作全工程カリキュラムにおいてMAの学習が多少弱いイメージがある。ポストプロダクションの業務としては、編集からMA、仕上げという工程があるため、可能であればMAの重要性も学べるとポストプロダクション業務の理解につながると思える。

改善点:ポストプロダクション業務に関する授業は、現在も多めに設定しているが、MA作業は弱点の一つでもあるので、今後学生の負担にならない様に、度のタイミングで実施するかも含め検討していく。

意見等:コロナ期間を通じて、在宅勤務が増え、一人に課せられる役割が増えたように感じる。今後は、このやり方も業界では並行して進んでいくと思われるので、そこで重要とされる、クライアントとのやり取りや同メンバーとの連携など、より一層コミュニケーション力が試されることになるので学生たちにも作品制作を通してその重要性やコミュニケーション力を向上させてもらいたい。

改善点:作品制作時は、学科担当が必ずフォローに入りながら外部との交渉に取り組んでいる。この席は何が必要で、何が重要かなども指導している。コロナを通じてオンライン上で仕事を進めることもあるようなので、コロナ収束後もオンラインについての対応は、授業の中でも時折利用していきたいと思う。その上でのツールの使い方やコミュニケーションの取り方なども指導していくこととする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①映像・メディア業界で必要とされる技能とコミュニケーション能力を兼ね備えた創造力豊かなマルチクリエイターを育成する教育方針を重点項目としている本科において、これらの目的を達成するため映像ジャンルに捉われず高い技術力や広範囲に渡り業務を行なっている企業を選定している事。
 ②「現場が求める人材」の効果的な育成を目的に、現場の第一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。
 ③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科では、撮影や編集、デザイン、演出手法等の映像制作・技術に関わる各分野において、高度な実践力を身につけるための実習・演習授業を実施している。各分野の職種や業務に従事している企業と連携し授業を担当いただき、学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を実施している。

1年次前期では映像制作における基礎知識の習得、演出面だけでなく、予算や制作過程の指導を受け、レコード会社やレーベルに所属するアーティストのミュージックビデオの制作実習を実施している。

2年次では、より実践力を高めるため、After Effectsやdavinci resolve等映像ソフト・業界スタンダードとなった4K収録・編集技術等を習得を指導していただき、後期にかけて行われる「卒業制作」への総合的な学習を実施している。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定期的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
映像創作基礎	映像を鑑賞しディスカッションします。幅広い知識を身につけると共に、映像を見る力や思考力を養います。	合同会社NOBO
映像創作分析	映像を鑑賞しディスカッションします。感じたこと、発見したことを言葉にして相手に伝える過程で映像を作る力を養います。	合同会社NOBO

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: VIDEO SALON WEBINAR 133 少数精鋭VFXチームが教える「作業効率化と演出力を高めるMV制作ワークフロー」
(玄光社 VIDEO)

講師: 涌井 嶺/MONA

期間: 令和4年9月2日(金) /プロモーション映像科 専任教員

内容: 映像制作技術という側面から労働環境を捉えます。今年、VFX専門の映像制作チーム・VeAbleを立ち上げた涌井嶺さんと、VeAble創設メンバーで映像ディレクターのMONAさんを講師に迎え、労働問題を解決する手段として、VFXの活用について考えます。演出の幅をどのようにして広げるのか、作業はどう効率化できるのかなど、VeAbleが手掛けたMV「LADYBUG」(Noah Sato)を例に、ワークフローを解説
【プログラム】

1. VeAbleを立ち上げた経緯
 - ・韓国と日本国内のMV制作規模の違いを、VFXで埋められないか。
 - ・「CGっぽさ」「合成っぽさ」からの脱却。
 - ・同じ予算、撮影期間の中での演出。
2. BlenderによるVFXを使った映像制作の可能性
 - ・VFXってそもそも何?
 - ・オープンソースのソフトによる個人制作VFXが可能になったことで、これから変わっていくこと
 - ・個人・少数のVFX制作で必要なこと
3. MV「LADYBUG」(Noah Sato)のワークフロー解説
従来のMV制作の問題点をVFXがどう解決するのか。
制作工程やポイントを実例を交えて解説。撮影はもちろん、エフェクトやライティング、グレーディングまで、制作の裏側をわかりやすく説明。またBlenderなど使用ソフトについての解説。
…プリプロ/撮影/オフライン/キーイング/3DCG制作/コンポジット/グレーディング/オンライン
4. 全体をディレクションできるVFXチームを目指して

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「わかりやすい説明の仕方」(主催: 株式会社インソース)

期間: 令和4年2月20日(月) / 対象: プロモーション映像科専任教員

内容:

1. 「伝える」ポイントを考える(過去に見聞きした説明を振り返る、など)
2. 目的・意図を明確にする(伝えたい内容を整理する、相手の立場になって考える)
3. 話の構造を考える(何が話をわかりにくくしているのか、構造化のパターン、階層化するメリット、など)
4. 話の展開を考える(わかりやすい説明をするためには、話の展開例)
5. 実際の話し方をトレーニングする(間の取り方、話すスピード、姿勢態度表情の作り方、など)
6. 総合演習①(指定された文章を階層的に整理し、最も伝えたい内容に絞って、分かりやすく説明する)
7. 総合演習②(3つのテーマから1つを選択し、自分で文章を考え、分かりやすく説明する)
(また、グループ内でお互いの説明の仕方について、チェックシートを用いてフィードバックを行う)
8. まとめ(本日の研修を踏まえて、明日から意識することを考え、グループ内で共有する)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: InterBEE2023 (主催: 一般社団法人 電子情報技術産業協会)

講師: 該当イベント出展社

期間: 令和5年 11月 /プロモーション映像科専任教員

内容: 放送・映像・音響・照明機器の最新技術展。今後各業界で主流となる機材の視察と、性能の理解を目的。
今後の業界の動向や、授業にて使用する機材の選定(学生たちでも扱える)も兼ねる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「分かりやすい説明の仕方研修」(主催: 株式会社インソース)

期間: 令和5年2~3月実施予定 / 対象: 東放学園全教職員

内容: 学生指導、保護者対応、関連企業団体等とのコミュニケーションを図る上で最も重要とされることでもあり、説明の仕方は、担当授業においても十分活かせるものである。
教職員としてのスキルアップのための研修としている。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- 1) 教育の一層の充実を図り、学校の目的及び社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- 2) 学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- 3) 各校・各部門は、情報公開を頭頭に掲げ、より高い基準を設定し関係者評価を実行する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会対応
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、インターンシップ等、防火・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

【学科共通】

本委員会での結果を活用し、教育活動及び学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応」「計画的対応」などを検討し、可能な限り改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップ等)特に、時代に合わせた社会人向け教育や、卒業生の早期退職者フォローにも活かせる内容を試みている。

[意見] 業界関連団体は多いが、もう少し深く関わることができないか。

[改善策] 主体的に地域や社会に学校をPRして行くことが必要である。関連団体との関係性は現時点では向こうから要請されたものに答えるだけである。今後はより間接部門のキャリアサポートセンターと協働して主体的に働きかけていきたい。

[意見] チームで作品づくりに携わる中で、他者と協調しつつ自分の意見を出せるような人材育成を目指してほしい。

[改善策] クリエイター育成と基本的な協調性等の人材・人間力育成は両輪で行う必要がある為、今後は教職員全体で検討して行く。

[意見] 理想の教員・職員のラインナップを考えて、少しでもそれを揃えられるような人事をして頂きたい。

[改善策] 近年、特に非常勤講師の多くが講師定年を迎えることもあり、過渡期に差し掛かっている現状である。その為今後は各学科で大幅なカリキュラムの見直しを検討している。またこれと同時に企業・団体との繋がりを組織的に強化して行こうと考えている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
月野木 隆行	学校法人東放学園 元理事 学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長 学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育・学校運営に関する有識者
浅井 千瑞	株式会社 メディアミックス・ジャパン 制作演出部 部長 プロデューサー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
加藤 亮一	株式会社 studio K	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
竹内 一仁	東京都立小岩高等学校 1学年主任 主幹教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教諭
芦塚 明子	2004年 デジタル映画科 卒業生 株式会社 スクーターフィルムズ 取締役COO プロデューサー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生(企業等委員)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL <https://www.tohogakuen.ac.jp>

公表時期: 令和5年3月2日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2)各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
(3)教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5)様々な教育活動・教育環境	部&クラブ活動紹介、機材・設備
(6)学生の生活支援	学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8)学校の財務	情報公開(財務情報)
(9)学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL <https://www.tohogakuen.ac.jp>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 プロモーション映像科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			プロモーション映像制作	好きなアーティスト・商品に対する主観的なイメージで創造するのではなく、仕事として依頼されたアーティストの楽曲をアーティスト側との共同作業でミュージックビデオを制作していきます。	1後	180			○	△	○	○	○		
2	○			ヴィジュアルイメージ	言葉ではなく、映像を使って他者に対して何かを表現する、視覚的コミュニケーションの基礎を実習していきます。	1前	80			○	△	○	○	○		
3	○			ノンリニア編集 (Premiere Pro)	映像作家・クリエイターの業界標準となったPremiereというソフトの基本概念的な理解を深め、その機能と操作方法を体感的に学びます。	1前	60			○	△	○			○	
4			○	ゼミナールⅠ	モチーフは提示しますが、自由度の高い映像制作を行います。(映画制作、web配信、番組制作、写真等)	1通	60			○	△	○	○	○		
5			○	ロケーションハンティング	台本(企画)の内容(場面)に合ったロケ(撮影)地を探し、他者に提示できる資料作成を行う授業です。	1前	30			○	△	○	○	○		
6			○	グラフィックソフト トレーニング	Adobe「Illustrator」「Photoshop」いうソフトの基本概念的な理解を深め、その機能と操作方法を実践的に学びます。	1後	60			○	△	○			○	
7			○	ライティングデザイン	撮影時に最低限必要であろう照明の知識を学んでいきます。電気的基础から撮影に使われる照明機材の使い方や電球の種類等、様々な角度から照明のテクニックを経験してもらいます。	1後	45			○	△	○		○		
8			○	空間インスタレーションⅠ	毎年行われる「学科イベント」に向け、単に作品を展示や上映する以外に、その表現スペース自体を表現媒体としてプロデュース・演出することを目的とし、実践を通じて学びます。	1後	30			○	△	○			○	
9			○	空間インスタレーションⅠ イベント制作	「空間インスタレーションⅠ」で企画運営をして来たイベントのスタッフとしてアーティストのアテンドや映像を実際に流す等の作業、生配信スタッフとしてカメラマン・スイッチング・配信用音声などを実践します。	1短	30			○	△		○		○	
10			○	イメージディレクションⅠ	この授業は「オリジナリティ」や「作家性」を「自分自身」の「経験」を通して形にしていくプロセスを学ぶ授業です。	1後	30			○	△	○			○	
11			○	CM制作基礎	授業では「制作会社」としての立場で制作実習します。企画立案から撮影、仕上げまでの実習を通して、制作部として、演出部として何をしなければならないかを学習していきます。	1後	30			○	△	○			○	
12			○	デジタル撮影基礎	『デジタル撮影基礎』の授業ではSony α7ⅢやCanon EOS 7D MarkⅡを中心に、ムービー撮影にとって必要最低限な知識や技術、撮影方法などカメラを扱う上での基礎を学んでいきます。	1前	60			○	△	○			○	

28		○	ミュージックビデオ制作	プロモーション映像科2年生前期の作品制作を行う実習です。この「ミュージックビデオ制作/CM制作」では撮影・照明・音声等の技術として「MV」「CM」の両撮影へ準備段階から参加・完成まで参加します。	2前	120				○	△	○	○	○					
29		○	ミュージックビデオ制作 企画・制作・演出	「MV」の制作を行う授業です。1年次よりも実習として、更にハイクオリティーな作品制作を目指します。	2前	60				○	△	○	○	○					
30		○	CM制作	プロモーション映像科2年生前期の作品制作を行う実習です。この「ミュージックビデオ制作/CM制作」では撮影・照明・音声等の技術として「MV」「CM」の両撮影への準備段階から参加・完成まで参加します。	2前	120				○	△	○	○	○					
31		○	CM制作 企画・制作・演出	「CM」の制作を行う授業です。1年次よりも実習として、更にハイクオリティーな作品制作を目指します。	2前	60				○	△	○	○	○					
32		○	イメージディレクションⅡ	一年後期のイメージディレクションを、さらにバージョンアップさせ、映像のオリジナリティーの向上を目指します。	2前	30				○	△	○						○	
33		○	映像創作	各自での映像制作を通じて、その映像を検証し、最終的に作品にまとめます。	2通	60				○	△	○						○	
34		○	デジタルエフェクト	Adobe「After Effects」を使用し、モーショングラフィックスとビジュアルエフェクトの基礎を学びます。	2前	60				○	△	○						○	
35		○	デジタル撮影システムⅡ	4KCamera「RED Digital Cinema」及びSONY「PXWFS7/FX9」を使って撮影技術を実践で学習していきます。	2前	80				○	△	○						○	
36		○	Avidエディティング	Avidのオペレーションを身に付け、編集に必要な具体的な知識及び、全体の流れについて学習していきます。	2後	60				○	△	○						○	
37		○	空間インスタレーションⅡ	毎年行われる「学科イベント」に向け、単に作品を展示や上映する以外に、その表現スペース自体を表現媒体としてプロデュース・演出することを目的とし、実践を通じて学びます。	2後	30				○	△	○							○
38		○	空間インスタレーションⅡ イベント制作	「空間インスタレーションⅠ」で企画運営をして来たイベントのスタッフとしてアーティストのアテンドや映像を実際に流す等の作業、生配信スタッフとしてカメラマン・スイッチング・配信用音声などを実践します。	2短	30				○	△		○						○
39		○	ゼミナールⅡ	モチーフは提示しますが、自由度の高い映像制作を行います。（映画制作、web配信、番組制作、写真等）	2通	60				○	△	○	○	○					
40		○	スタッフゼミⅡ	授業外での撮影やイベント等、スタッフとしての活動を時間数として認定します。	2短	30				○			○					○	
41		○	AEI MUSIC PROGRAMⅡ	エイバックス・エンタテインメント協力のもと、アーティストのLIVE収録やミュージックビデオの制作などを行います。	2短	30						○	○	○	○				○
42		○	映像表現	独創性の高い作品を観ながら、その表現力と想像力の構成を考察します。また、時にアート界における特別ゲストを招き、その表現スタイルを体験していきます。	2前	30				○				○					○

43		○	アートディレクション	「(番組等の)タイトルデザイン」等、様々な作例をベースにより深く学びながらチームで作品制作を行います。	2後	30		○	△	○								
44	○		特別講座Ⅱ	毎回映像業界のあらゆるジャンルのプロフェッショナルをゲストに迎えて、最前線で仕事をしているプロならではの視点から、そのノウハウやトピックスを織り交ぜ、映像業界の実際に関する講義をして頂きます。	2前	30		○		○								
45		○	就職講座Ⅱ	業界理解を深めつつ、筆記試験対策としての模擬試験や、面接対策としてプレゼンテーションの練習等を行ったりします。また、企業の方をゲストで招いて企業説明会も実施します。	2前	30		○	△	○								
46		○	就職講座Ⅲ	卒業後の進路決定に向けて、授業内で業界関連企業の説明会と個人面談をベースとして進めます。	2後	15		○	△	○								
合計					46	科目		1960	単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
【卒業要件】 ①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定		1学年の学期区分	2期
【履修方法】 初回の授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。